

萩野由之 （註） 國史學者、文學博士。萬延元年四月十七日佐渡國生
 れ、大正十二年二月一日歿（六六—一九四）。宇禮卿、幼名半作。號和
 菴、和菴學人、和菴叢史、章秋、は、よ、生等。明治十九年東京大學
 文學部古典講義科卒。元老院書記生、學務院教授、東京高等師範學校
 教授兼東京女子高等師範學校教授を經く、二十四年東京帝國大學教
 授、退官後宮内省御用掛。帝國學士院會員。

著書 『國學和歌改良論』 （國學改良論） 『和歌改良論』 『小中村義象合著、明治二十

年七月吉川半七刊』、『實地』 『應用技藝百科全書・第一章編』 （合著・内山正

如編、明治二十一年六月、千白博文館。『作文法』 （收載）、『外交』

（合著、明治二十一年十月、千白博文館）、『主權論』 （高槻純

之助合著、明治二十二年七月七日博文館『政治學』 『經濟學』 （講義全書）、『朝

野年中行事』 （明治二十五年二月、千白博文館）、『日本歴史評林・

第一編』 （明治二十六年一月、千白博文館）、『水鏡』 （松井簡治

共校定、明治二十年五月四日六合館）、『中等』 『教育日本歴史要解』 （懷之

筆記、明治二十一年八月五日博文館）、『名家文話（第一章編）』 （合

著・内田鐵二郎編、明治二十二年五月十日鐵華書院）、『名文譯釋』

（合著・國學院編、明治二十四年五月四日博文館）、『少年日本歴史

讀本』 （編、第四編『檀原の宮』明

治四十四年七月一日、第六編『新羅

征伐』十一月二十八日、第九編『大

平時代』大正元年七月十四日、第十

五編『應仁の亂』二年十二月二十四

日、第十六編『武田信玄』三年九月



四百、第十七編 〇安土城 〇十八日博文館、 〇日本文學史 〇大正四年六月二十五日修學堂書店 〇新撰百科全書 〇讀史の趣味 〇大正四年十一月八日東亞堂書房 〇縮刷名著叢書 〇王政復古の歴史 〇大正七年十月十五日明治書院、 〇註釋日本歴史 〇大正八年九月十五日博文館 等。